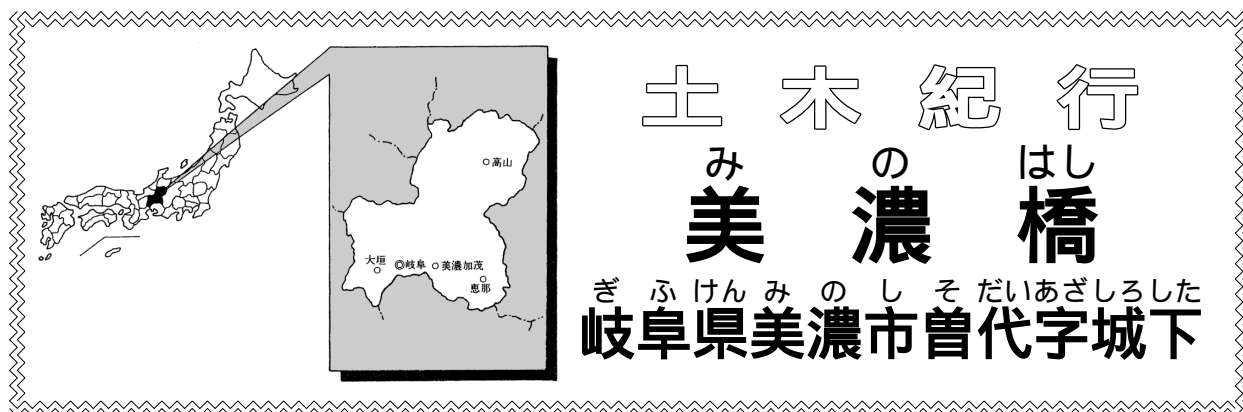


建設当時わが国で最大級

美濃橋は、岐阜県美濃市の市街地の北部、小倉山の西方を流れる長良川に架かる吊橋です。大正5年に竣工した美濃橋は、橋長113m、支間116m、幅3.1mの単径間補剛吊橋で、近代吊橋の要素を構造躯体全体に備え、建設当時わが国で最大級の支間を実現した、大正期を代表する吊橋です。また、木製床版部分を除いて、建設当初の部材が今なお使用されています。

和紙を運ぶ吊橋の建設

長良川は古代より水上交通が発達し、近世からは物資の集積地である川湊「上有知湊」、そして岐阜・桑名への水上交通がこの地域の繁栄に重要な役割を果たしました。江戸時代から上有知（現美濃市）を中心に街道が通じ交通の要所でした。長良川には郡上街道と牧谷街道をつなぐ前野渡しがあり、右岸の牧谷周辺で製造された和紙が左岸の美濃中心地や上有知湊などに集積され、近世より渡しは、船運が利用されていました。

明治末期に、近代的な渡船技術が導入されるものの、洪水など河川の増水時によりしばしば交通が遮断されることがありました。このため、安定的な交通手段を確保するために、明治45年に橋の

架設に対する県補助費を申請します。この申請は、一度却下されたのち大正3年に許可されます。

近代吊橋の要素を備えた吊橋

建設は、岐阜県技師 戸谷亥名蔵を中心に進められ、大正4年8月起工、同5年8月に総工費26,378円96銭で竣工しました。戸谷亥名蔵は、明治21年に帝国大学工科大学土木工学科を卒業し、茨城県および高知県技師を歴任した後、明治29年より岐阜県に赴任した土木技術者です。

この橋の構造は、両岸に建てられた鉄筋コンクリートの主柱を介してアンカーレイジから張られた左右2本の主ケーブルと補剛桁に接合した横桁を吊ケーブルで連結する構造で、床板には木材が使用されています。

建設後は、長良川を横断する主要道路の一つとして機能し、昭和30年代まで車両が通行していましたが、長良川の上流に新たな橋梁が架かることで次第に交通量を減らしていきます。昭和40年代以降は、歩行者



専用道路として地域住民などに利用されています。

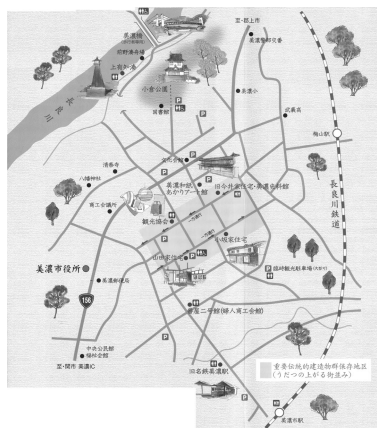
「重要文化財」への登録

美濃橋は、現存する最古の近代吊橋として橋梁歴史上高い価値があること、また、近代吊橋の要素を備えており、建設当時わが国で最大級の支間を実現した大正期を代表する吊り橋として重要であることから、平成15年に技術的に優秀なもの、歴史的価値が高いものとして、国の重要文化財に指定されました。

みのわし 美濃和紙

美濃橋がある美濃市は、岐阜県の東濃に位置する、清流長良川に代表される豊かな自然と伝統を誇る「美濃和紙」「うだつの上がる町並み（国重要伝統的建造物群保存地区）」といった伝統文化の息づくまちです。美濃和紙は1300年の伝統を誇り、昭和44年には、本美濃紙の製法が国の重要無形文化財に指定されています。

美濃和紙のミュージアムである「美濃和紙の里会館」や「美濃和紙あかりアート展」美濃和紙を使ったアート作品のコンテストを実施しています。江戸時代からの情緒を残す町並みで美しく灯るあかりのオブジェから美濃和紙のもつ柔らかさと美しさを感じることができる、美濃和紙の魅力あふれるイベントです。



「うだつ」の上がる町並み

現在の美濃市の町並みは、慶長5年（1600年）、関ヶ原合戦の功により徳川家康からこの地を拝領した金森長近が小倉城を築いた際、現在の位置に城下町を移したのが始まりです。水害の心

配がないよう、丘の上にまちを移し、現在も残る町割りの完成は慶長11年（1606年）頃とみられています。物流を活発にするため、郡上街道を通し、長良川には川湊「上有知湊」を開きました。明治末期まで美濃町は「上有知」と呼ばれていましたが、明治44年（1911年）に美濃和紙にちなんで「美濃市」に改名されました。

江戸時代初期に築かれたこの町は、地域性豊かな意匠や伝統的な建造物が色濃く残り、歴史的景観が保たれていることから、平成11年に伝統的建造物群保存地区に指定されました。

この町は、丘の上に位置するため、水害や地震に強い反面、水利に乏しく、一度火災が発生すると大惨事となりました。そのため防火対策として、延焼を防ぐ防火壁である「うだつ」が屋根の両端にあげられ、美濃市には日本で最も多くのうだつが残っています。裕福な家しか「うだつ」を造ることができなかったため、庶民の願望から「うだつを上げる・うだつが上がらない」の言葉もできました。

町並みには、江戸～明治時代にかけて造られた商家が軒を連ね、情緒あるたたずまいを見せています。なかでも、国の重要文化財である小坂家住宅や市指定文化財である旧今井家住宅は庭や蔵などに往時の繁栄を今も留めています。



【交通】

- ・東海北陸自動車道「美濃 IC」から車で約10分
- ・長良川鉄道「美濃市駅」下車、徒歩15分
- ・岐阜バス（八幡線）「小倉公園前」下車、徒歩5分

【美濃橋に関するお問い合わせ】

美濃市経済建設部基盤整備課

電話 0573-33-1122

〒501-3792 岐阜県美濃市1350番地

【美濃市の観光情報】

美濃市 HP <http://www.city.mino.gifu.jp/>

美濃市経済建設部観光課

電話 0575-33-1122